

農業専門金融機関としての取組み

当会としての取組み

当会は、愛知県域を地盤とする農業専門金融機関として、ＪＡグループにおける「自己改革実践サイクル」の構築と着実な実践を通じて、当会の中核的事業領域である地域農業の持続的発展・成長産業化を実現するため、当会ならではの金融仲介機能の発揮に取り組んでいます。

● 農業法人・担い手等への融資推進

農業融資新規実行額 30億円

農業生産基盤を支える農業法人や農業の担い手等の事業基盤の維持・成長を支えるため、融資による資金供給に取り組んでいます。

● ビジネスマッチング支援

令和５年度実績

37件

食農ビジネスを支える農業法人・農業の担い手等の販路拡大や農商工連携等を支援するため、県下ＪＡをはじめとするＪＡグループで連携を図りながら、当会取引先等の農産品調達ニーズを捉え、そのニーズに合ったビジネスパートナーを幅広く紹介し、新たなビジネスチャンスの創出に取り組んでいます。

事例 ゴトーアグリ × ＪＡ愛知信連 × ＪＡ愛知北

地域から農地を引き受け、規模拡大を進める露地野菜農家である（有）ゴトーアグリに対し、ＪＡ愛知北と連携し、ＪＧＡＰの認証取得やビジネスマッチングを通じた販路提案等の総合事業支援を実施した結果、食品加工会社２社との成約等、農家所得向上に繋がりました。



取組事例が掲載された農業新聞記事
出所：「日本農業新聞 令和６年３月24日」

事例 こまき楽の湯 × ＪＡ愛知信連 × ＪＡ尾張中央

柿の規格外品の再利用を望んでいたＪＡ尾張中央とSDGsの活動を模索していた（株）ナカシロ（天然温泉楽の湯）とのビジネスマッチングを実施した結果、天然温泉楽の湯において、規格外品の柿や柿の葉をお風呂やサウナで有効活用するイベントが開催されました。



「かきフェア」のチラシ

● 農業経営の金融負担軽減に向けた取組み

J Aが融資する一定の条件を満たす農業関係資金を対象に、農業者の金利・保証料の負担を軽減する利子補給事業および保証料助成事業を実施しています。

農業資金の借入れに対する利子補給	2,630件
農業資金の借入れに対する保証料助成	684件

● 経営改善コンサルティング

農業経営を取り巻く様々な課題解決に向け、経営改善のための専門資格の取得を通じてスキル・ノウハウの底上げに取り組むとともに、外部専門家等との連携に基づく多様なソリューションの提供を通じて、取引先の経営改善支援に努めています。

- 農業経営アドバイザー資格（日本政策金融公庫主催）取得者75名（令和6年3月末）
- 日本政策金融公庫等、外部機関のソリューションの連携活用に向けた関係強化

● 多様な資金調達手段の提案

農業法人の資金調達手段の一つとして、アグリビジネス投資育成(株)と連携し、「アグリシードファンド」や「担い手経営体応援ファンド」等による資本供与を提案しています。



「アグリシードファンド」チラシ

● J A グループの総合力発揮

J Aグループが総合力を結集し、ワンストップで専門的・総合的な対応を行っていくために、他連合会と共同で「J Aグループ愛知担い手総合相談支援室」を設置し、訪問活動強化や担い手農家の経営改善提案等に取り組んでいます。

ＪＡバンクあいちとしての取組み

当会は、ＪＡグループ愛知の一員として、農業者の所得向上や農業生産の拡大等に貢献するため、金融仲介機能以外の面においても、県下ＪＡ支援を通じた各種取組みを行っています。

● 農産物直売所等の利用活性化に向けて

令和５年度実績 80か所

農業者の皆様の所得向上や地産地消の拡大を図るため、より多くの皆様に、県内の農畜産物を販売するＪＡ運営の農産物直売所等をご利用いただけるよう、ＪＡバンクでは、平成29年４月からＪＡが運営する農産物直売所やグリーンセンター（一部対象外の店舗があります。）でのＪＡカード利用代金の割引施策を実施しています。

愛知県内では、80か所（令和６年４月１日現在）の農産物直売所およびグリーンセンターが割引対象店舗となり、令和７年３月末まで、店頭でのお買い物をされたお客さまのＪＡカードご利用時のお買い物代金について、請求時に５％割引します。



ＪＡ直売所割引施策ポスター

● 愛知県産の農畜産物消費拡大に向けて

令和５年度実績 1,000名様

県下ＪＡでは、愛知県産の農畜産物をより多くの皆様に知っていただき、消費拡大に貢献するため、令和５年６月から10月の期間を対象に「年金振込で愛知県産農畜産物プレゼントキャンペーン！」を実施いたしました。

新規で年金をお受け取りいただいたお客さまを対象に、抽選で1,000名に、県内産牛肉（焼肉セット）または県内産米（食べ比べセット）を進呈しました。



「年金振込で愛知県産農畜産物プレゼントキャンペーン！」ポスター

● J Aバンクあいちの取組みにかかる広報・P R活動の強化

この地域の農業者や農業に携わる人々が、農業に真摯に向き合う姿を、地域の皆様に広くご理解いただくため、P R活動を実施しています。

「未来が実る、農業へ。」は、J Aバンクあいちが地域農業の未来に向け、農業所得向上と地域農業活性化に取り組む姿勢を表現しています。



ポスター掲載イメージ



● 小学校等への教材本の贈呈

食農教育・環境教育などを基本テーマとした教材本を県内の全小学校等へ贈呈して、教育現場での食農教育を応援しています。

令和5年度は、約8,700冊を県内の小学校等1,020校へ贈呈しました。



磯村代表理事理事長(左)より飯田県教育委員会教育長(右)へ教材本を贈呈

地域金融機関としての取組み

当会としての取組み

● 地域からの資金調達の状況

県下ＪＡや関係諸団体をはじめ、地域の皆様から各種貯金をお預かりしており、令和６年３月末の貯金残高は、７兆７,２７１億円となりました。

● 地域への資金供給の状況

県下ＪＡや関係諸団体をはじめ、地域の暮らしや農業者・事業主の皆様に対する円滑な資金供給に努め、令和６年３月末の貸出金残高は、４,５６４億円となりました。

- 県内農業を営む皆様に金融面から支援させていただくため、県下ＪＡでの対応が難しい農業法人等の農業の担い手向けの各種金融商品を取り扱っています。
- 台風等の自然災害や家畜伝染病により農業経営に甚大な被害を受けた農業者に対する金融面での復旧支援として「ＪＡバンクあいち農業被害支援利子補給事業」を実施しています。

● 地方公共団体への資金協力等

愛知県債の引受金融機関として資金協力を行うとともに、愛知県、名古屋市の収納代理金融機関として税金等の公金収納事務を行っています。

● Tongaliプロジェクトへの協賛

当会は令和4年度から、「Tongali※」のサポーター企業として協賛を行っています。

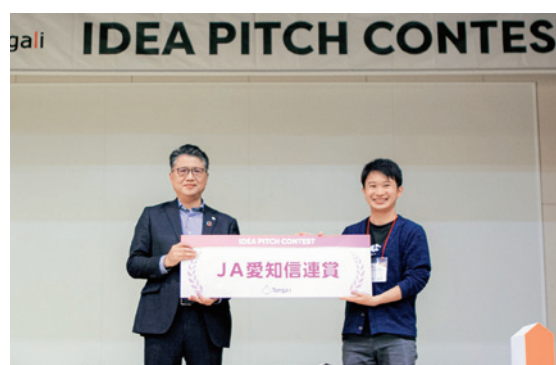
Tongaliのプロジェクトにおける起業支援の対象には、社会に対するイノベーションの創発、地域の活性、グローバル展開を食農系アイデアによって推進しようと志向する大学発ベンチャーが多く存在します。また、これら大学発アイデアは、いち大学に留まらず、新たな価値創出に伴い、公的機関や研究機関等のネットワーク形成に寄与し、東海地区の地域発展を飛躍的に押し進めることが期待されます。



Tongaliアイデアピッチコンテストの様子

当会は、Tongaliの取組みに賛同し、優れた学生アイデアには、当会からサポーター賞を贈呈しており、今後も大学等との連携を重ねながら地域貢献に資する活動を行っていきます。

※ Tongaliとは、自ら社会課題を見つけ、課題解決に向かってチャレンジするアントレプレナーシップ教育と起業支援活動のため創設された名古屋大学を中心に東海地区20大学に跨るプラットフォームの総称です。



J A 愛知信連賞受賞者への贈呈

ＪＡバンクあいちとしての取組み

● 若年層利用者向けキャンペーンの実施

ＪＡバンクあいちでは、若年層利用者を対象に「口座開設キャンペーン」（令和５年１２月～令和６年３月）を実施しました。

「口座開設キャンペーン」では、県下ＪＡで新たに普通貯金口座を開設し、開設月の月末残高が１５,０００円以上ある０歳から５歳までのお子様を対象に、もれなく１,０００円をプレゼントします。



「ＪＡバンクあいち口座開設キャンペーン」ポスター

● 「ＪＡバンクあいちドームドッジ２０２３ in ナゴヤ」への特別協賛

令和５年１１月２６日（日）、スポーツを通じて未来を担う子供たちを応援し、地域社会との一体感を醸成することを目的に、「ＪＡバンクあいちドームドッジ２０２３ in ナゴヤ」に特別協賛しました。

本大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和２年度以降３年間中止となっていたものの、令和５年度は４年ぶりに開催され約８,５００人が来場されました。当日は、幼児の部から一般の部まで全国から３２４チームが出場し、白熱した試合に会場は大いに盛り上がり、地域の方々とのふれあいを図るため、愛知県下ＪＡと信連からも１１チームが参加しました。

入賞チームには、「ＪＡバンクあいち賞」として、愛知県産の農産物（新米「あいちのかおり」、いちご、みかん）を進呈したほか、会場内に併設したよりぞうとの記念撮影コーナーの参加者には、ＪＡバンクオリジナルグッズを進呈しました。

また、地域農業のＰＲおよびＪＡバンクあいちのイメージアップを図るため、会場内の大型ビジョンでは、美しい愛知県内の農業風景の中で、農業に真摯に向き合う農業者の姿を描いた動画や、ＪＡバンクのイメージキャラクターが出演する商品・サービスの紹介動画を放映しました。



白熱した試合の様子



告知ポスター



幼児の部の表彰式

● 「第3回絵本作家とふれあう絵本フェス」への協賛

若年層との接点強化および地域社会との一体感の醸成を目的に、令和5年7月29日（土）に名古屋市の吹上ホールで開催された「第3回絵本作家とふれあう絵本フェス」に協賛しました。

会場内のイベントブースでは、参加者がトートバッグに「よりぞうスタンプ」を押してオリジナルトートバッグを作るワークショップを実施しました。また、ブース内には、J A ネットバンクポス

ター・貯金連動型住宅ローンチラシ・J A バンクナビ・よりぞうのぼり等を設置するとともに、運営スタッフである職員がよりぞうのポロシャツや法被を着用して、J A バンクあいちの商品・サービスをPRする取組みも行いました。

当日は、200名を超える方にご参加いただき、「よりぞうのスタンプがかわいかった」等のお声をたくさんいただきました。



ワークショップを楽しむ参加者の様子

社会貢献活動

当会は「JAバンクあいち」の一員として、資金供給などの金融機能の提供により、農業の振興や地域社会の発展に貢献するとともに、社会福祉などに対する貢献活動を通じて豊かでゆとりある地域社会の実現に向けた取り組みを行っています。

● 児童養護施設へ愛知県産の果物および新米の寄贈

日本の将来を担う児童の健やかな成長を支援することで児童に食の大切さを伝えとともに、県内農業の発展に寄与することを目的として、中部善意銀行を通じて県下全ての児童養護施設に対し、令和5年7月21日（金）にメロン510玉、令和5年11月22日（水）に新米10トン（全児童の約1か月分の消費量相当）、令和6年2月9日（金）にいちご1,442パックを寄贈しました。

新米の寄贈は、平成23年度から取り組んでおり、これまでに116トンを寄贈しています。また、果物の寄贈は、平成28年度から実施しており、ブ

ドウ、いちご、メロン、ポンカン、スイカ、柿および梨を寄贈しています。



磯村代表理事理事長（左から4人目）より中部善意銀行岡田理事長（右から4人目）へ新米を贈呈



磯村代表理事理事長（左から4人目）より中部善意銀行岡田理事長（右から2人目）へ目録およびメロンを贈呈



柴田代表理事常務（左から3人目）より中部善意銀行岡田理事長（右から2人目）へ目録およびいちごを贈呈

● 老人福祉施設などへ車椅子等の寄贈

協同組合組織の地域金融機関として、高齢者が誰にも気がねなく、安心して暮らせる豊かな地域を築き上げていくことに役立てていただくため、県下の老人福祉施設へ車椅子等の福祉機器を寄贈しました。

- ① 愛知県社会福祉協議会が選定した老人福祉施設 4 施設に、ティルト式リクライニング車椅子16台を寄贈しました。



柴田代表理事常務(右)より県社会福祉協議会吉田専務理事(左)へ目録および車椅子を贈呈

この活動は、平成14年度から取り組んでおり、これまでに360台を寄贈しています。

- ② 高齢者福祉事業に携わるＪＡに、希望する福祉機器等を寄贈しました。

この活動は、平成14年度から取り組んでおり、これまでに22回寄贈しています。



寄贈したティルト式リクライニング車椅子

● 農業高等学校への農機具の寄贈

愛知県下の農業者の高齢化・減少に伴い農業の担い手が不足する中、担い手の育成を支援するとともに、県内農業の発展に寄与することを目的として、令和5年12月18日(月)に、安城農林高等学校へ乗用型芝刈機を、半田農業高等学校へ畑作管理機を寄贈しました。

この活動は、愛知県下の農業系高等学校9校を対象に、平成30年度から実施しています。



磯村代表理事理事長(左から2人目)より安城農林高等学校竹内校長(左から1人目)および半田農業高等学校天野校長(右から1人目)へ目録を贈呈

● 団体献血の実施

地域社会の一員として地域医療に貢献するため、令和5年8月30日（水）にJAあいちビルにおいて、愛知県赤十字血液センターの協力のもと、団体献血を実施し、50名の役職員が参加しました。

この活動は、平成18年度から取り組んでおり、これまでに20回、延べ1,767名の役職員が参加しています。



団体献血当日の様子

● 使用済切手の寄贈

使用済切手を、県下の社会福祉の向上に役立てていただくため、「使用済切手保管箱」を全部署へ設置し、収集した使用済切手を中部善意銀行へ寄贈しています。

この活動は、平成18年度から取り組んでおり、これまでに約21キログラムを寄贈しています。



「使用済切手保管箱」と収集した使用済切手

● フードバンクへの食品の寄贈

地域社会の一員として、食品ロスを削減する環境的側面と生活困窮者を支援する福祉的側面を持つフードバンクの活動に貢献するため、令和6年3月14日（木）に、認定NPO法人セカンドハーベスト名古屋へ、役職員から提供された食品および入れ替え

に伴う災害備蓄用食品に加え、市場から返品された米220キロを寄贈しました。

この活動は、社会貢献活動の一環として令和2年度から実施しています。